

令和3年度 山梨県立甲府南高等学校学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針 将来、日本や国際社会の様々な分野で活躍し、社会の発展に貢献できる人材の育成を図る。

山梨県立甲府南高等学校長 篠原 茂樹

本年度の重点目標	1 活用力や探究力を高める授業を展開し、確かな学力の定着を図る。
	2 様々な体験を通じて、他者を思いやり、社会の絆を深める「しなやかな心」を育てる。
	3 体育活動・文化活動を積極的に推進し、心身共に健全な生徒を育てる。
	4 生徒の個性を活かし、自己の生き方・在り方を考えさせる進路指導を積極的に行う。
	5 スーパーサイエンスハイスクールにおける主体的・協働的な探究活動を深め、課題解決能力を育てる。

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価			年度末評価(2月25日現在)	
番号	評価項目	具体的方策	自己評価結果	達成度
1	活用力や探究力を高める授業を展開し、確かな学力の定着を図る	目標と指導と評価の一体化を目指した授業により、生徒の思考力・判断力・表現力を養う	授業参観 授業アンケート	B
	生徒の主体的で協働的な学習により活用力・探究力を高める	学習の記録表 課題の状況把握	授業参観 授業アンケート	
	文章を書く機会や発表する機会を設定し、言語活動の充実に努める	定期試験への記述問題 発表における総合評価		
	教材や資料の共有化やICTの効果的な活用を図る	授業参観 授業アンケート		
2	様々な体験を通じて、他者を思いやり、社会の絆を深める「しなやかな心」を育てる	ボランティア精神の啓蒙に努め、主体的なボランティア活動を推進する	ボランティア1000回運動 環境委員会活動 インナー外委員会活動	B
	通学時マナーアップ運動と運動した安全登校や挨拶・身だしなみの指導を展開する	遅刻者数の統計調査 事故違反者数の統計調査		
	道徳教育を推進し、しなやかな心を持つ、人間として調和のとれた生徒の育成に努める	LHRでの活動 各種行事等の実践事例		
	関係機関との連携やスクールカウンセラー(SC)の活用により、教育相談の充実を図る	学年保健連絡会実施		
3	体育活動・文化活動を積極的に推進し、心身共に健全な生徒を育てる	部活動を計画的・効果的に進め、学校の活性化と生徒の心身の健全な育成に努める	各種大会の結果 部活動への参加率	B
	文化的・教養的行事等を通じて生徒の豊かな感性の育成に努める	外部参加者へのアンケート調査		
	体育的行事等を通じてスポーツに親しませ、体力向上に努める	新体カテストの実施 生徒アンケートの実施		
	月2回のきずなの日を完全実施する中で、計画的に部休日を設ける	活動計画書・活動実績書		
4	生徒の個性を活かし、自己の生き方・在り方を考えさせる進路指導を積極的に行う	ホームルームや総合的な学習の時間を中心に、体系的プログラムによるキャリア教育を推進する	発表における自己評価 及び相互評価	B
	進路希望に応じた課外・模擬試験・学習会等を効果的に行う	課外の実施回数 生徒アンケートの実施		
	主体的な活動を通して、自己の進路と社会の諸問題を結びつけて考えさせる	講演会や講話の実施 小論文指導		
5	スーパーサイエンスハイスクールにおける主体的・協働的な探究活動を深め、課題解決能力を育てる	学校設定科目「フロンティア探究」を通して課題研究に全校で取り組み、学びに向かう力をつける	研究発表会	B
	高大接続プログラムを開発し、ポートフォリオやルーブリックの研究を行う	生徒・教員アンケート実施 ポートフォリオ ルーブリック		
	サイエンスイングリッシュや研修旅行を通じて、実践的英語力を育成する	サイエンスイングリッシュ 連携校との交流		

学校関係者評価	
実施日(令和4年3月1日)	
評価	意見・要望等
3	・コロナ禍における分散授業、分割授業、遠隔授業、オンライン授業等の対応がなされ、生徒の学びを保障するため工夫されている。今回の対応が、どれだけの生徒に興味を持って受け入れられ、学力の定着が図られたか、先生方の授業に対する考え方や評価等にそれぞれ立場で、少なからずコロナ禍による一過性のことが捉えず、それぞれの授業方法の検証にもつなげていただきたい。 ・スクールミッション、スクールポリシーについては教育活動に落とし込み、南高の教育方針の周知につなげていただきたい。
3	・今年も新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、ボランティア体験活動が減少したように感じている。ボランティアは「個人の自発的な意思をもとに主体的に行う」「行政よりも自由で創造性をもって活動すること」が求められており、「必要に応じて工夫をしたり、全く新しいものを創り出す先駆的な考えが大切」とされている。このようなコロナ禍においても、ボランティアを新たな発想の基に自発的にできるような生徒が多く出てくることが期待したい。 ・保健室の来室状況から、頭痛や内科その他の項目が多く、心の不安定さが心身の要請として現れるケースが多いとのこと。この傾向は県下の中学校、高校も同じ状況だと思われる。生徒からのカウンセリングの要望、教職員へのコンサルテーションも多くあることから、SCと先生方の連携を密にしながら生徒が不登校にならないような事前の手立てを検討していただきたい。
3	・体育活動、文化活動共に高校時代における部活動は、今、思い返しても、若いうちにはできないことの大きな一つであり、やらずに終わるのは寂しいものがある。これまで同様、多くの生徒たちの入部を期待する。 ・高校時代を楽しむためには、全力プレーやフェアプレー、チームワーク、やさしさ、敬意などの総合的な能力が必要であり、幸せを感じる感性を磨くことが大切である。現在も、コロナ禍において活動制限があり思うように活動できない状況であるが、生徒たちには、このような時だからこそ、小さな幸せや小さな目標の中に、生きる喜びの源泉があることに気づいて、頑張ってもらいたい。
4	・新型コロナウイルスの感染拡大により、オンライン形式で実施するなど学習の機会の確保に努めたことは評価できる。しかし、「主体的な活動をおこなう」ということになると、オンライン形式でどうしても受け身になってしまうので工夫が必要と考えられる。 ・オンラインの利用等の工夫により、進路後援会や大学出張講座、成年年齢引き下げに関する授業、職業人講話など多くの講演会が実施された。その中には梧棲屋相談役の中丸眞治さんなど南高OBが講演してくれていることに嬉しく思いました。今後も県内、国内、国外にいる南高OBの優れた方々を発掘し、講演していただくと思います。身近な先輩方の生き方あり方を伝えてもらうことは効果的である。
4	・今後、新型コロナウイルスと共に生きることを前提に、私たちの暮らしの形そのものを養って行く必要があり、ICTを活用して他者とつながることが重要となっている。インターネットを使ってオンライン大学付属高校と交流できることはコミュニケーションの向上、違う文化の体験、情報社会に主体的に対応していく力の習得など、様々な可能性を持っている。今後もICTを利用して何ができるか模索しながら探究活動につなげて行ってほしい。